

第1回 徳島阿波おどり空港将来ビジョン検討会議 議事概要

日時: 令和7年8月8日 14:00~16:00

場所: 徳島県庁 10階 特別大会議室

1. 航空ネットワーク維持・拡充

- ・インバウンドの回復が予想以上に早かった一方で、日本人の海外旅行者数は減少傾向にある。
- ・若者が海外旅行に興味がないことが海外に行かない理由の一つ。
- ・パスポート取得率が低い現状があり、若者や子供たちが海外に出る機会を増やすための施策が必要。
- ・徳島県民で高松空港を利用している人は西部を中心に多い。徳島から乗ってもらう人をどう増やすということが課題。
- ・ビジネス運賃は上がっているため、徳島空港でも路線維持を考えるならビジネス需要を高めていく必要がある。
- ・沖縄旅行の際、徳島の大学生でも高松空港を利用する人もいる。
- ・修学旅行で沖縄に行く際も高松空港を利用する学校もある。
- ・羽田便の増便や機材の大型化、LCCの活用を検討。
- ・福岡便と札幌便について要望。
 - (1) 福岡便: 出発時間が遅いため日帰りの仕事が難しい。
 - (2) 札幌便は年間を通じての運航を希望。
- ・山陰や北陸、名古屋、静岡などの路線を開拓して利便性を向上させる取組を望む。
- ・羽田線をしっかり飛ばしながら路線数を増やしていくのがよいのでは。
- ・国内線も含め、徳島県民がもっと利用するようなアウトバウンド施策が展開できればよい。
- ・海外修学旅行の促進(パスポート取得費の県費負担等)に取り組んではどうか。
- ・若年層が徳島空港を使いたくなるようなプロモーションをしてはどうか。
- ・高松空港や神戸空港とは競争でなく、協調・共生で取り組んではどうか。
- ・高松空港との関係では、全体のパイを2つの空港で広げて欲しい。

2. 空港施設の機能強化・魅力向上

- ・徳島においても、より地域性の高い、いわゆる産直的な商品かつ空港ならではの、おしゃれでコンパクトな、値頃感のあるものがより求められていると感じており、地域商社としても連携して行っていきたい。
- ・「ここに来ないと買えない」という商品などが空港にあればよい。
- ・地域特産品を扱うフードコートを設置などの検討。
- ・ターミナルを建て替えてホテルと一緒にしてはどうか。
- ・徳島空港でもフォトスポットの設置やSNS発信が増えればよいと思う。

3.二次交通・利便性向上

- ・空港の利用促進と改革は避けて通れない課題であり、立体駐車場のよう設備投資も重要。
- ・駐車場の改善の検討。
- ・雨天時は空港駐車場からの移動で濡れてしまうので、濡れないよう整備を。
- ・空港利用者の増加には、淡路島や香川県東部からの利用圏域拡大が重要。これらの地域からの利用促進策として、駐車料金の優遇サービスを提案する。
- ・民間駐車場の割引による県民の利用促進を図ってはどうか。
- ・国際定期便の就航に伴い、リムジンバス 65 人乗りの新車両2台を投入した。
- ・大塚国際美術館やお遍路などに行くための、荷物が積める直行バスの必要性。
- ・路線バスに大きなトランクを持って満席になっている状況は、安全面からも懸念。
- ・鳴門方面行きの路線バスの運行時間の延長を検討願う。
- ・徳島空港では待機レーンが1列しかなく、2～3レーンあれば、公共交通と個人旅客の送迎車との棲み分けができると思う。
- ・日本では、GO や SRIDE の利用が多く、キャッシュレスで支払ができるため、東京などで慣れている人は導入メリットが大きい。
- ・空港の総合案内所への意見では、二次交通に関するものが最も多く、大規模イベント時のタクシー不足に関する意見は年間300件弱ある。
- ・空港に着いて電話でタクシーを呼ぶのは、海外の方には難しい。
- ・待機して空振りした分を県が補助する代わりに一定台数は待機を要請するという仕組みを検討してはどうか。
- ・カーシェアやレンタカーの改善。
- ・学会などで来県された方は、空港から大学までのアクセスを課題に挙げていた。

4.全般

- ・本会議が、徳島阿波おどり空港の運営に民間の活力を取り入れる「コンセッション方式」の検討を開始する機会になればと考えている。
- ・日本の人口は3割減少し、市場や労働力も減少するため、海外からのインバウンド誘致や輸出、外国人労働者の活用が必要。
- ・徳島としてブランドを統一してPRしていく必要がある。
- ・阿波おどりや渦潮は季節性が強すぎる感がある。強いブランドを変化発展させて紹介していくのも重要。
- ・情報発信についても自分たちだけで行うのではなく、同じ思いを持った人たちや外国人が困っていることの情報発信はとても広まる。